

第7回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会
チーム 参加募集要項

学生プール

チーム1次要項

2015年9月17日

第7回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会
実行委員会

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当協会事業に対しまして格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、下記の通り「第7回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会」を開催いたします。

つきましては開催にあたり参加選手の募集をさせていただきますので皆様のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

記

- 日 程 2015年11月14日(土)～15日(日)
- 場 所 千葉県国際総合水泳場(千葉県習志野市茜浜2-3-3)
- 主 催 特定非営利活動法人日本ライフセービング協会
- 後援(予定) 文部科学省、千葉県、千葉県教育委員会、習志野市、公益財団法人日本水泳連盟、
一般社団法人千葉県水泳連盟、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー
- 協賛(予定) 株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
- 協力(予定) 有限会社吉田三郎商店

■競技種目 【個人種目】

- ※01 200m障害物スイム(女)
- ※02 200m障害物スイム(男)
- ※03 50mマネキンキャリー(女)
- ※04 50mマネキンキャリー(男)
- ※05 100mレスキューメドレー(女)
- ※06 100mレスキューメドレー(男)
- ※07 100mマネキンキャリー・ウィズフィン(女)
- ※08 100mマネキンキャリー・ウィズフィン(男)
- ※09 100mマネキントウ・ウィズフィン(女)
- ※10 100mマネキントウ・ウィズフィン(男)
- ※11 200mスーパーライフセーバー(女)
- ※12 200mスーパーライフセーバー(男)

【チーム種目】各チーム(男女別)からのエントリーは1組のみとします。

- 13 4×50m障害物リレー(女)
- 14 4×50m障害物リレー(男)
- 15 4×25mマネキンリレー(女)
- 16 4×25mマネキンリレー(男)
- 17 ラインスロー(女)
- 18 ラインスロー(男)

【特別種目】各チーム(男女別)からのエントリーは1組のみとします。

- 19 メドレーリレー【Intercollegiate Relay version】(女)
- 20 メドレーリレー【Intercollegiate Relay version】(男)
- 21 BLSアセスメント(女) <各チーム2名抽選>
- 22 BLSアセスメント(男) <各チーム2名抽選>
BLSアセスメントについては、必須参加種目とし、各チームの登録競技者の中から2名を抽選で選出します。詳細や得点につきましては別紙でお知らせいたします。な

お、表彰対象とは致しません。

【オープン種目】 各チーム（男女別）からのエントリーは1組のみとします。

23 4×50mメドレーリレー（女）

24 4×50mメドレーリレー（男）

- ◆ ※印の種目は、エントリーする条件としてエントリー標準タイムを設定します。詳細は別紙「エントリー標準タイム導入について」を参照してください。
- ◆ 下線のある種目は、タイム決勝で行います。
- ◆ BLSアセスメントについては、1回の手技にて行います。
- ◆ チーム種目および特別種目は、各チームから1チームのみのエントリーとします。
- ◆ **【特別種目】**メドレーリレーについては、決勝に出場できない9位/10位/11位の学校から1名ずつ選出し選抜チームを作ります。この選抜チームは、1位から8位を決定する決勝戦に出場することが出来ます。ただし、順位および得点は入りません。大会記録を出した場合は公式記録として認めます。
- ◆ **【オープン種目】**4×50mメドレーリレーについては今大会では得点、メダルの授与の対象にはなりません。但し、記録については公式記録として認めます。

■タイムテーブル

別紙（昨年度のタイムテーブル）を参照してください。なお、タイムテーブルは、選手エントリー数により変更する場合があります。

■得点方法

タイム決勝及び決勝の結果に対して得点が加算（男女別）されます。今大会では個人、チーム種目及び特別種目で得点が異なります。配点は下記の通りとします。

.....

[個人]

1位-8点、2位-7点、3位-6点、4位-5点、5位-4点、6位-3点、7位-2点、8位-1点

[チーム種目及び特別種目] ※BLSアセスメントを除く

1位-16点、2位-14点、3位-12点、4位-10点、5位-8点、6位-6点、7位-4点、8位-2点

[BLSアセスメント]

A判定-8点、B判定-0点、C判定-0点

.....

- ① チームの総合得点が同点の場合は、1位の種目の多いチームを、1位の種目が同数の場合は、2位の種目の多いチームをというように総合順位を決定します。
- ② 総合順位は男女別とし、本大会で実施するオープン種目を除いた11種目中9種目（実施種目の80%）以上の最終競技結果をもって成立するものとします。
- ③ 決勝で失格の場合は0点とします。
- ④ ブロッキングシステムを採用します。

《ブロッキングシステムとは》

個人種目の上位8位内に同一クラブの選手が複数名入賞していた場合は、最も上位の順位のみが総合得点に反映される。

■表彰

各種目上位1～8位を入賞とします。また、1～3位はメダルを授与し、表彰式で表彰します。また、チーム総合得点により上位1～8位を入賞とし、1～3位のチームを表彰式で表彰します。※全て男女別での入賞、メダル授与および表彰とします。

■審判員の選出

参加チームは以下の要領に従い、認定審判員をチームエントリーと同時に選出しなければなりません。認定審判員を選出していないチームはエントリーが受け付けられません。また、2日間を通じて参加できることを原則とし、例外的に参加日ごとに審判員が入れ替わることも可能とする。しかしその場合も、交通費は1名分(上限5,000円のみ)と致します。

なお、選出した審判員が参加できなくなった場合は、必ず代わりの方を選出してください。
選出人数については、下記のとおりとします。

◆選手 5～20 名=1 名以上 ◆21～40 名=2 名以上 ◆41 名以上=3 名以上

【申込み】

別紙の審判員募集要項を確認の上、「審判員・スタッフ参加申込書」を提出して下さい。

■参加費

選手 1 名につき 6,000 円をエントリー締切日までに指定の口座にお振込みください。振込先については「大会エントリーの手引き」でご確認ください。

◆申込締切後であっても、エントリーミスによる出場種目の変更が可能です。

但し、10 月 13 日（火）申込締切時にエントリーされている（選手登録している）方のみ対象とし、新たな選手のエントリーは認められません。

また、変更手数料として、1 つの変更につき、3,000 円の手数料を頂戴いたします。振込先は参加費と同様の口座です。期限内に必ず振込下さい。

期限内に変更手数料の振込のない場合は、変更を受付ません。

例： 種目を 1 つ変更 = +3,000 円 種目を 2 つ変更 = +6,000 円

■エントリーの制限

個人種目のエントリーは、選手 1 名につき 2 種目までとします。ただし、チーム種目はこの限りではありません。

種目によってエントリーする条件としてエントリー標準タイムを設定しています。詳細は別紙「エントリー標準タイム導入について」を参照してください。

■代表者会議

競技進行や競技上の注意事項について説明する代表者会議を開催します。詳細につきましては後日チーム代表者宛にご連絡いたします。大会直前の重要な情報を伝達し、各種目の最終出場確認をするため、代表者会議には必ず出席してください。

※（予定）11 月 13 日（金） 19 時 30 分 水泳場の会議室 1・2

■観戦席

会場の場所取り等での混乱を避けるため、各チームの観戦席の区分を予め主催者側で指定させていただきます。なお、選手を含めた人数を考慮致しますので指定された記入用紙に記載願います。

■C 級審判員養成講習会

C 級審判員養成講習会を以下の通り開催予定です。※詳細はホームページをご確認ください。

- 10 月 4 日（日）港区豊岡いきいきプラザ（東京都）
- 11 月 8 日（日）静岡市清水市民活動センター（静岡県）

■申込方法

「参加競技者募集要項」「大会参加規定」を熟読し、学校（チーム）単位でお申し込みください。提出物はデータファイル送信と書類の郵送がございます。詳細は「大会エントリーの手引き」でご確認の上、記入漏れ・記入ミスのないように十分ご注意ください。

※申込締切： 2015 年 10 月 13 日（火）

データ提出；2015 年 10 月 13 日（火）24：00 受信分まで

郵送提出；2015 年 10 月 13 日（火）必着分まで

- ※ 締切りを過ぎたものや書類の不備、上記の提出書類が揃っていない場合は、受け付けませんので、ご注意ください。なお、締め切り前であればエントリーデータや提出書類の修正は可能です。ただし、修正したものの締切日は上記に設定した通りとします。
- ※ 参加規定を満たしていない場合、参加費の未納等は参加を受け付けない場合がありますのでご注意ください。
- ※ 参加申し込み締切日までに、会員登録および会費納入の手続きをされていない団体・個人会員の方は、本大会に出場できませんので、予めご了承下さい。

	提出方法提出書類等の概要	提出方法	提出期限(締切)
データ/書類	●チーム/選手エントリーデータ (チームエントリーフォームA・B・C)	メール	10月13日(火)24:00 受信分 まで
	●(希望者のみ) キャップ申請書 ※新規/変更 (チームエントリーフォームキャップ申請書)		
	●同意書 (チームエントリーフォームD)	郵送	10月13日(火)当日消印 有効
	●競技者カード (チームエントリーフォームE) ※参加者全員分		
	●チームカード (チームエントリーフォームF) ※男女1枚ずつ		
	●審判員申込用紙	郵送またはメール	10月13日(火)24:00 受信分 (メール)、 10月13日(火)当日消印有 効(郵送)
	●(希望者のみ) エントリーミスによる出場種目の変更の 申込エクセルデータ	メール	10月16日(金)事務局からの エントリーリストのメール受信 時 ~ 10月22日(木)24:00 受信分
振込	●参加費の振込	「大会エントリーの手引き」、参 加費の振込をご参照の上、手 続き下さい	10月13日(火)当日消印有 効
	●選手の個人年会費 (2015年度 正会員 or 一般会員)	http://www.jla.gr.jp/home.htm 「会員になるには」をご参照の 上、手続き下さい	
	●チームの団体年会費 (2015年度 団体正会員 or 団体一般会員)		
	●(エントリーミスによる出場種目の変更希望者 のみ) 変更手数料	参加費の振込先と同様の口座	10月13日(火)当日消印有 効
注)	<p>※締切りを過ぎたものや書類の不備、上記の提出書類が揃っていない場合は、受け付けませんので、ご了承ください。</p> <p>※参加規定を満たしていない場合、参加費の未納等により、大会参加を受け付けない場合がありますのでご注意ください。</p> <p>※参加申し込み締切り日までに、会員登録および会費納入の手続きをされていない団体・個人会員の方(チーム選出の認定審判員も含む)は、本大会に出場できませんので、予めご了承下さい。</p>		

■お知らせ <競技力強化委員会>

第9期 JLA ハイパフォーマンスプログラム・強化指定選手入れ替えの選考レースです。第一～三次募集でエントリーしている全ての選手が対象です。

■競技会参加とライフセービング資格連動のご案内

ライフセーバー（レスキューアスリート&審判員）が集う競技会としての位置づけから、本大会への参加は、日本ライフセービング協会が発行する「ベーシックサーフライフセーバー」もしくは「プールライフガード」の資格の所有を推奨しております。

所有している場合にはエントリーフォームの指定欄に有効期限を必ず記載下さい。

■その他

各種目で入賞された選手で、競技成績証明証が必要な方は JLA ホームページ「委員会→競技運営審判委員会→競技成績証明書」を出力し、JLA 事務局までご提出ください。

■提出先

メール提出先； compe@jla.gr.jp

※必ず受信完了メールが届きます。1週間経っても JLA 事務局から受信完了メールが届かなければ、お手数ですがお電話にてお問合せ下さい。

郵送提出先； JLA 事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1F

■お申込み・お問合わせ先

日本ライフセービング協会事務局（業務時間：平日 9：00-18：00）

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1階

TEL：03-3459-1445 FAX：03-3459-1446

全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会

参加規定

1 参加資格

競技者の参加資格は下記を満たしている者、若しくは本協会が特別に参加を認めた者でなければならない。

- 1-1 競技者は、大会初日当日満 18 歳以上でなければならない。
- 1-2 競技者は、ライフセービング活動を志し、出場する競技会の過去 1 年以内に海岸やプール等水辺での監視・救助活動、協会が認める教育活動に 25 時間以上従事した学生でなければならない。
- 1-3 競技者は、本協会の団体正会員・団体一般会員に所属かつ個人正会員、若しくは個人一般会員として登録している学生であること。
- 1-4 チーム参加の場合、参加チームの大学または専門学校に在籍し、その所属する大学および専門学校が協会に登録されていること。
- 1-5 1-4 に該当しない学生は、個人種目のみ参加を認める（ただし、チームキャップの登録は必要なので事前に確認すること）。
- 1-6 エントリー標準タイムが設定されている種目では、当該種目のエントリー標準タイムを突破できる者（チーム代表の責任において申告すること）。

2 チーム構成

- 2-1 チームは、出場資格を満たした、それぞれの大学又は専門学校のチームに在籍している学生のみで構成されていること。
- 2-2 1 つの学校からの出場チーム数は 1 チームとする。但し、同じ学校でも校舎が離れている等の事由により別に活動しているクラブがある場合は、その活動状況を審査し、1 学校で 2 チーム以上の出場を認める場合もある。
- 2-3 2-2 においては調査を必要とするため、2 ヶ月前までに必ず申請をすませる事とする。なお、期限を過ぎたときは今回の大会には起用しない。
- 2-4 本大会のチーム構成は、男子チーム・女子チームとする。男女混合チームとしての参加は認められない。

3 チーム名

参加チーム名は大学又は専門学校名とする。但し、同じ学校でも校舎が離れている等の事由により別に活動しているクラブがある場合で、1 学校で 2 チーム以上の参加をする場合は、大学名＋校舎名までとする。

4 出場登録

- 4-1 参加選手は個人種目、チーム種目にかかわらずあらかじめ所定の用紙を用い出場種目の登録をしなければならない。なお、登録後の出場種目の変更及び未登録の種目への出場はできない。
- 4-2 登録種目数は、1 人 2 種目を限度とする（ただし、チーム種目は除く）。

5 チーム代表者

各参加チームはチームを代表する者としてチーム代表者を 1 名おかななければならない。なお、チーム代表者と選手はこれを兼任することができる。また、チーム代表者は必ず代表者会議に参加しなければならない。なお、止むを得ずチーム代表者が出席できない場合は、チーム代表者の責任において参加選手で代表者に準ずる者が出席すること。

6 チームユニフォーム及び競技中の衣類

- 6-1 各チームは、式典や表彰式および競技に適したユニフォーム、水着、キャップを持たなければならない。ラッシュガードは、主催団体から特別な指示がない限り競技中、任意に着用することができる。
- 6-2 ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般良識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる競技者も競技に参加することができない。※別途、水着に関する規定を必ず確認すること。
- 6-3 キャップは、競技会の前に本協会に登録されていなければならない。
- 6-4 キャップは、チーム全員が同様の色とパターンのキャップでなければならない。オーシャン用とプール用で色やパターンが異なる場合、併用できない。スタートの後に、キャップが取れたり、失ったりした場合でも違反なしに競技が終了できていれば失格とはならない。

- 6-5 チームのユニフォーム、水着、キャップ、ラッシュガードに競技会のスポンサーと対立するような商標、商標名があると主催団体が判断した場合、その対応は主催団体の指示に従わなければならない。
※キャップ登録は、すでに登録を済ませ変更がない場合は必要ない。登録をしていないクラブはチームキャップ登録申請書を届出しなければならない。
※水着に出場チーム以外の学校名・クラブ名が記載のものは混乱を招くため着用できない。

7 表彰

- 7-1 日本ライフセービング協会理事長杯は、ライフセービングチーム最優秀の証として総合優勝チームに贈られる。表彰は、閉会式にて行う。
7-2 種目別表彰
各種目上位1~8位は入賞とし、1~3位にはメダルを授与する。

8 参加費

- 8-1 参加費は、出場する種目数にかかわらず1名につき6,000円とする。
8-2 参加費は、参加申し込みの締め切り日までに支払わなければならない。
8-3 参加申込締切後の出場登録の取り消し、天候その他の理由により、大会のタイムスケジュール変更や、やむを得ず中止になった場合でも参加費は返還されない。
8-4 参加選手が欠場、あるいは失格となった場合でも参加費は返還されない。
8-5 変更手数料（申込に過誤があった場合の、出場登録（申込締切）後の「出場種目の変更」の手数料）は、1つの変更につき、3,000円とする。
8-6 変更手数料は、あらかじめ指定された期日までに支払わなければならない。
8-7 出場種目の変更申込後に、出場登録の取り消し、天候その他の理由により、大会のタイムスケジュール変更や、やむを得ず中止になった場合でも参加費は返還されない。
8-8 参加選手が欠場、あるいは失格となった場合でも、変更手数料は返還されない。

9 競技器材

- 9-1 競技で使用する器材はライフセービング競技規則「第7章競技器材の規格」の基準を満たさなければならない。
9-2 プール競技で使用するレスキューチューブ、障害物、マネキン、スローラインは、主催団体が用意するものとする。
9-3 主催団体は、競技者の競技器材の検査・再検査を競技前、競技中、競技終了後任意に行うことができる。競技器材が基準を満たしていない場合、その競技者はその器材を使用できないか、または失格となる。

10 競技規則

- 10-1 競技規則は「ライフセービング競技規則（2014年版）」に則り実施する。
10-2 本競技会のスタート方法は、1回制（1スタートルール）とする。
10-3 200m障害物スイム(女男)、50mマネキンキャリア(女男)、100mレスキューメドレー(女男)、100mマネキンキャリア・ウィズフィン(女男)、100mマネキントウ・ウィズフィン(女男)、200mスーパーライフセーバー(女男)、4X50m障害物リレー(女男)、ラインスロー(女男)、4X50mメドレーリレー(女男)については、競技進行上、時間的な制限により、タイム決勝（予選を行わず、決勝のみ）で行う。
10-4 泳力等の不足や傷病等により競技の続行が危険と判断した場合は、対象選手の競技を中断することがある。
10-5 BLSアセスメント
・本競技会に出場する全てのチームは、必ず参加しなくてはならない。
・BLSアセスメントに参加しないチームは総合順位に含まれない。
・各チームの中から、BLSアセスメント出場者を抽選により大会当日発表する（各チーム2名）。
・詳細については別紙および代表者会議にて説明する。

11 得点方法

- 11-1 個人種目の得点においては下記の通りとする。
1位-8点、2位-7点、3位-6点、4位-5点、5位-4点、6位-3点、7位-2点、8位-1点
11-2 チーム種目及び特別種目（BLSアセスメントを除く）においては下記の通りとする。
1位-16点、2位-14点、3位-12点、4位-10点、5位-8点、6位-6点、7位-4点、8位-2点

11-3 オープン種目である4×50mメドレーリレーについては、得点に加点されない。

12 認定審判員の選出

12-1 参加チームは男女を合計した登録選手数に対し以下の通りに認定審判員を選出しなければならない。

- ◆選手 1~4 名=認定審判員 0 名以上
- ◆選手 5~20 名=認定審判員 1 名以上
- ◆選手 21~40 名=認定審判員 2 名以上
- ◆選手 41 名以上=認定審判員 3 名以上

ただし、何かの理由で審判員が参加できなくなった場合は、必ず代替りの者を選出すること。

12-2 参加する審判員の方は、別紙審判員・スタッフ参加募集要項の「審判員・スタッフ参加申込書」に必要事項を記入し申し込むこと。

12-3 2名以上選出するチームは「審判員・スタッフ参加申込書」をコピーして提出すること。

12-4 選出する審判員は、C級認定審判員資格以上を取得し、選手として登録していないこと。

12-5 選出する審判員は2日間を通じて参加できること。

なお、2日間を通じて審判員を選出できないとき（やむを得ず参加日ごとに審判員が入れ替わる場合）は、主催者は1名分の交通費（上限¥5,000円）のみを支給する。なお、その場合、1名の方に交通費を全額支給しますので、選出審判員の代表として受取下さい。

12-6 審判員参加に関わる交通費、朝食、昼食は別紙「審判員・スタッフ募集要項」に基づき主催者が負担する。

13 その他

13-1 大会中に大会主催者および大会主催者が認めた者が撮影した写真、映像を、ライフセービングの広報の目的で使用することがある。

13-2 大会中に大会主催者が撮影を制限したり、拒否したりすることがある。

13-3 大会主催者への提出書類の記載事項に虚偽が認められた場合、大会への参加や記録が取り消されることがある。

14 特別種目における競技ルール

メドレーリレー (Intercollegiate Relay version)

- (1) 競技人数 3名
- (2) 使用器材 レスキューチューブ、フィン
- (3) コース ー競技規則 2014 年版 107 頁 (4) を参照ー
- (4) 競技の方法

- ① スタートは、プール競技総則（飛込スタート）に準じる。
- ② 第1競技者（後の第4競技者）は、フィンをつけてスタートの合図の後50m泳ぎ壁にタッチする。
- ③ 第2競技者はフィンなしでスタート台からスタートし、50m泳ぎ壁にタッチする。
- ④ 第3競技者（溺者役）はフィンなしでレスキューチューブをつけてスタート台からスタートし、レスキューチューブを引いて50m泳ぎ壁にタッチする。
- ⑤ レスキューチューブを付けてスタートする場合、レスキューチューブの本体と紐は、競技者の判断で指定されたレーン内に位置させる。ただし、競技者は、レスキューチューブを付けたスタートが安全にできるようにしなければならない。
- ⑥ 第4競技者（前の第1競技者）はフィンをつけ、少なくとも一方の手で壁に触れるか、またはスターティンググリップを掴んで水中で待機し、第3競技者（溺者役）が壁にタッチした後、レスキューチューブの肩掛けの部分を受け取る。第4競技者（前の第1競技者）は、手、腕、足で壁を蹴っても押ししてもよい。
- ⑦ 第4競技者（前の第1競技者）は、レスキューチューブをつけ第3競技者（溺者役）を引っぱって50m泳ぎ、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチする。
- ⑧ 第3競技者から第4競技者（前の第1競技者）へ引き継ぐ際、第3競技者（溺者役）は、5mラインを越える前にレスキューチューブに触れていなければならない。10mラインを通過する前に、できるだけ速やかにレスキューチューブの紐を十分に伸ばした状態にしなければならない。その後、第3競技者は溺者役となりレスキューチューブを両手で掴んで50m引っ張られる。
- ⑨ 第3競技者（溺者役）は、引っぱられている間、足でキックすることは許されるが、それ以外は救助者に協力してはならない。
- ⑩ 第3競技者（溺者役）は、レスキューチューブの本体を掴まなければならない（紐やクリップの部分を掴んではならない）。

- ⑪ スタート後にフィンを落としてしまった場合は、競技者はフィンを回収するか、またはフィンなしで競技を続けることができる。

(5) 失 格

総則（共通・プール競技総則）の違反に加えて、次のような場合は失格となる。

- ① 種目別の競技規則に違反した場合。
- ② 第1、第2 競技者が、それぞれ折返しの壁にタッチする前に第2、第3 競者が、スタートした場合 (DQ43)。
- ③ 第3 競技者が折返しの壁にタッチする前に、第4 競技者（前の第1 競技者）がプールの端壁やスターティンググリップから離れた場合 (DQ45)。
- ④ 第3 競技者（溺者役）が折返しの壁にタッチする前に第4 競技者（前の第1 競技者）がレスキューチューブ（肩掛け部分、紐、その他全ての部分を含む）を触った場合 (DQ44)。
- ⑤ 第3 競技者（溺者役）が、腕を動かして協力したり、またはレスキューチューブを両手で掴んでいない場合 (DQ47)。
- ⑥ 第3 競技者（溺者役）が5m ラインを越えた後、レスキューチューブの本体を掴まずに紐やクリップを掴んでいる場合 (DQ46)。
- ⑦ 5m ラインを越えた後に、第3 競技者（溺者役）がレスキューチューブを放してしまった場合 (DQ48)。
- ⑧ 第4 競技者（前の第1 競技者）が10m ラインを越えた後、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされた状態で、第3 競技者（溺者役）を引っ張っていなかった場合 (DQ49)。
- ⑨ 第4 競技者（前の第1 競技者）が、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ14)。
- ⑩ 第1 競技者以外の競技者が、2 つまたはそれ以上の区間に出場した場合 (DQ39)。
- ⑪ 第1 競技者以外の競技者が、自分の区間を終了した後に、再度プールに入った場合 (DQ50)。
- ⑫ 前の競技者が、壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 (DQ40)。

以上